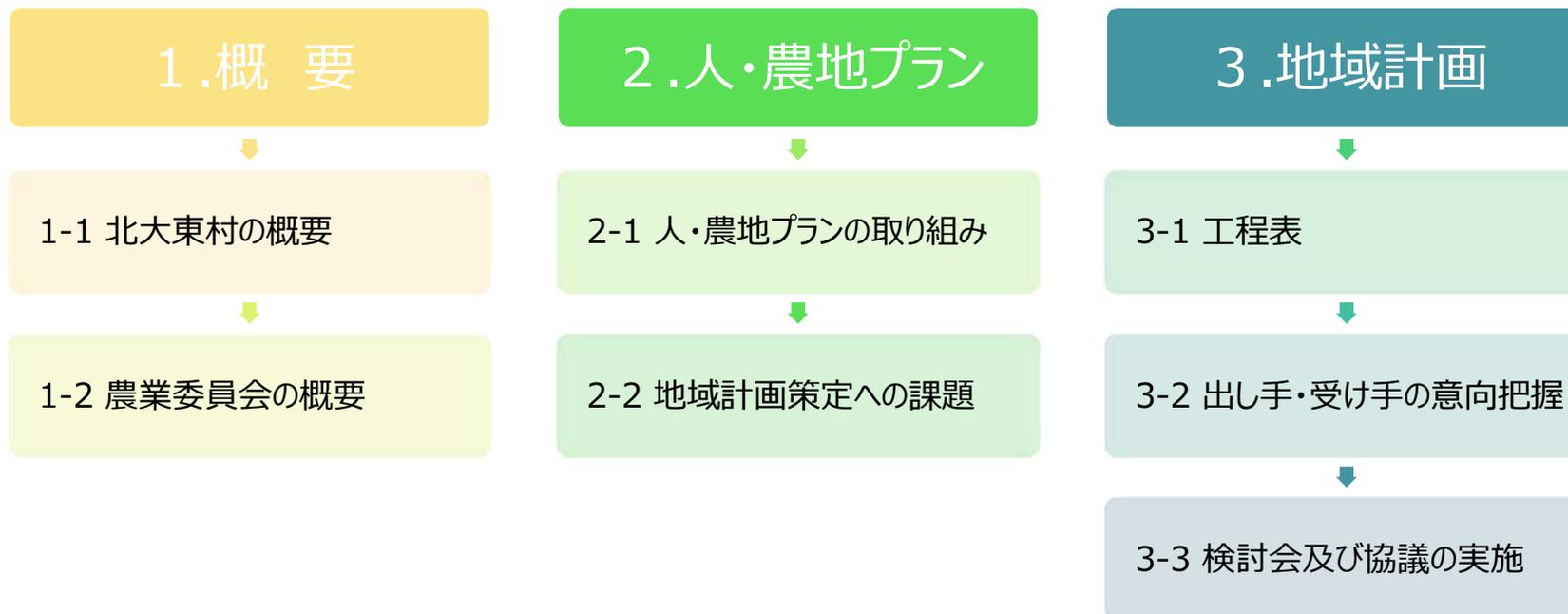




地域計画策定の取組について

北大東村農業委員会 係長 大城 勇太

目次



1. 概要

1-1 北大東村の概要

1-2 農業委員会の概要



1-1 北大東村の概要

沖縄本島の**東方約360km**に位置する北大東村は、沖縄でもっとも早く朝日が昇る島で、北大東島と沖大東島の**二つの島**からなってます。

北大東島は、**珊瑚環礁が隆起してできた島**で、中央部は盆地のように窪んでおり、大小20数個の沼や湿地が散在しています。

北大東島から南にある、ほぼ三角形をした沖大東島（ラサ島）は、北大東島の約10分の1の面積です。戦前は燐鉱石の産地として活気にあふれていましたが、現在は**無人島**となり、米軍の射撃場に使用されています。

総面積：1,307 ha

耕地面積：542 ha

※2020年農林業センサス、令和4年面積調査

総人口：547人

世帯数：292世帯 ※令和4年4月末現在



1-1 北大東村の概要



リン鉱石採掘事業が盛んに行われていましたが、閉山後は**サトウキビ農業**に切り替わり、今では村民の生活を支えています。現在は、ばれいしょ、かぼちゃも栽培しております。



広々と区画整理された**大規模農業**を実践しており、サトウキビの収穫は100%機械化されております。



北大東製糖は、昭和33年の設立以来、島内の唯一の製糖工場として村の経済を支えています。

1-2 農業委員会の概要

農業委員：5名（うち認定農業者：4名）

※推進委員の設置なし（農地集積率89.7% ※R5年3月末時点）

事務局職員：2名（事務局長・係長）

※経済課兼務

	経営体数
総農家数	102
農業経営体数	77

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	77
女性	27
40代以下	3

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	23
基本構想水準到達者	57
認定新規就農者	0
農業参入法人	0
集落営農経営	0
特定農業団体	0
集落営農組織	0

※農業委員会調べ

2. 人・農地プラン

2-1 人・農地プランの取り組み

2-2 地域計画策定への課題

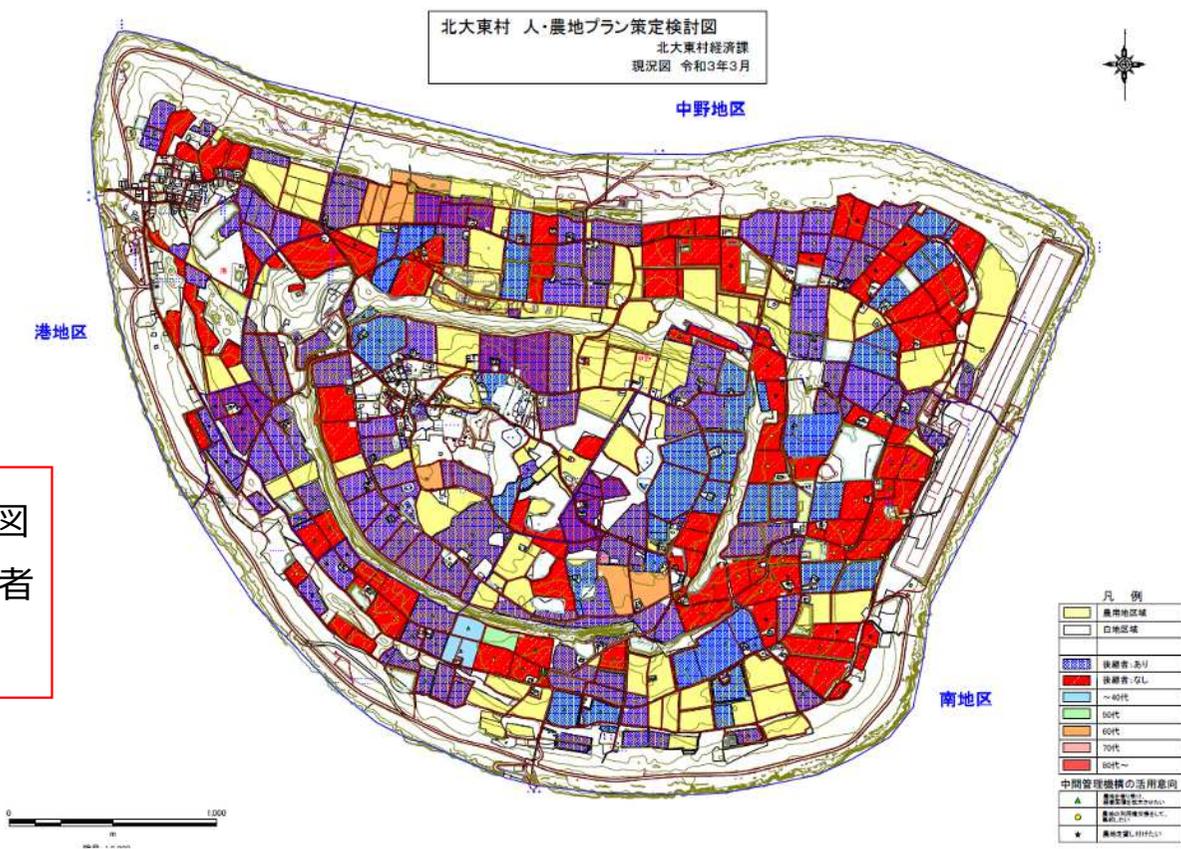


2-1 人・農地プランの取り組み

実質化された「人・農地プラン」の要件

1. アンケートの実施
2. 現況把握（現況地図の作成）
3. 中心経営体への農地の集約化に関する
将来方針の作成

※前回の「人・農地プラン」の際に作成した地図は情報が1枚の地図に集約されており、農業者にとって分かりにくいものになっていた



2-2 地域計画策定への課題

1. アンケートの情報が不足

→ 耕作者の年齢や後継者の有無程度の情報しかなく、農地や経営意向の情報がない

→ アンケート回収率が約6割と低い

2. 現況地図が農家に分かりにくい

→ 1枚の地図にたくさんの情報が入りすぎて分かりにくい

→ 農家個人のイメージで話し合いをするのではなく、現況地図で正確な状況を知ってもらい地域で話し合ってもらう必要があるため

3. 地域計画を進行する組織（検討会）が曖昧

→ 役場、農業関係機関・団体、農業者、地域を巻き込んだ合意形成が必要であるため

→ 地域計画策定の役割分担や進捗管理を共有する必要があるため

4. エリアの見直しが必要（村で1プラン・話し合い1単位 → 村で1計画・話し合い3単位）

→ 話し合いを村全体で行うと、地域ごとの合意形成が難しく、意見の集約ができないと判断

3. 地域計画

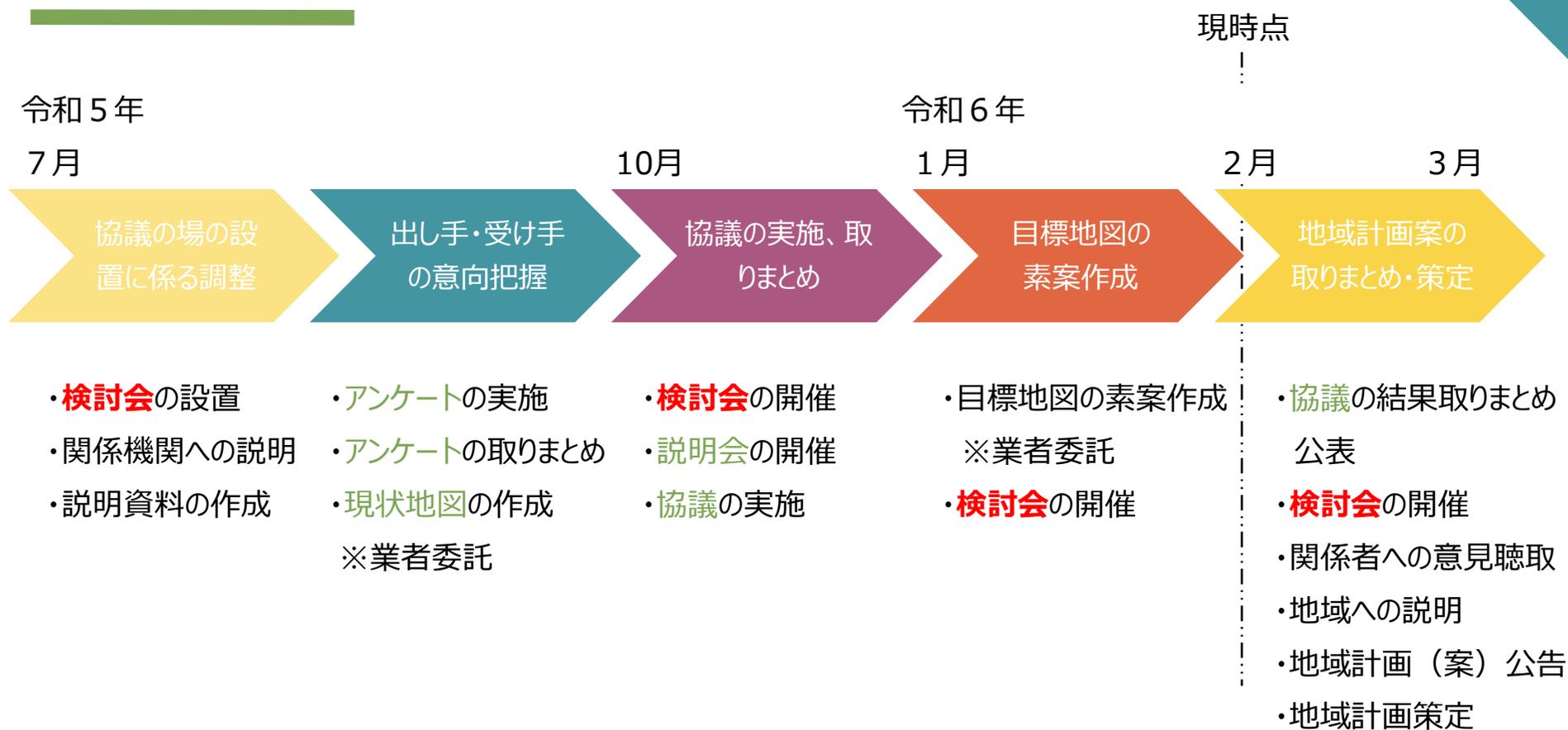
3-1 工程表

3-2 出し手・受け手の意向把握

3-3 検討会及び協議の実施



3-1 工程表



3-2 出し手・受け手の意向把握

アンケートの実施（所有者）

1. 村独自のアンケート様式の作成
→回収率を上げるため、設問できるだけ**シンプルに設定**
2. 基本はアンケート用紙を郵送し、担当地区の農業委員がほ場または自宅に行き回収を行う
→農業委員の**戸別訪問**の回収で**8.5割**ほどの回収
回収できなかった方のほとんどが土地持ち非農家の方
で島外にいる方
※島外地権者には返信用封筒で対応

アンケートの設問

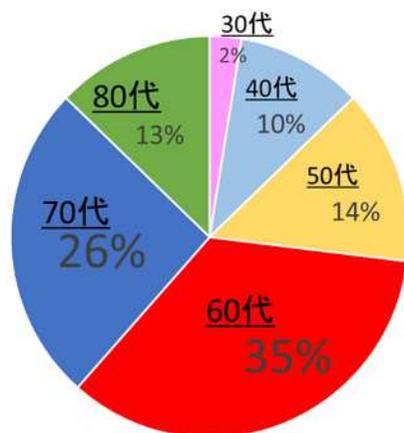
- Q1 氏名、経営の種類、性別、年齢
- Q2 営農意向（現状維持、規模拡大、離農・規模縮小）
- Q3 離農・規模縮小の回答者へ向けた売買、貸付意向調査
- Q4 後継者の有無について
- Q5 今後の農業経営方針について
- その他 自由記載欄

※回収率を上げるため、できるだけシンプルに設問設置

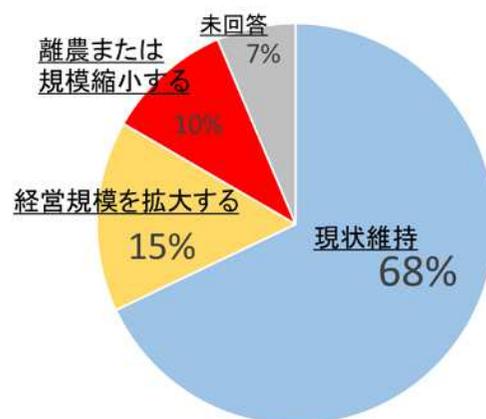
3-2 出し手・受け手の意向把握

アンケートの結果

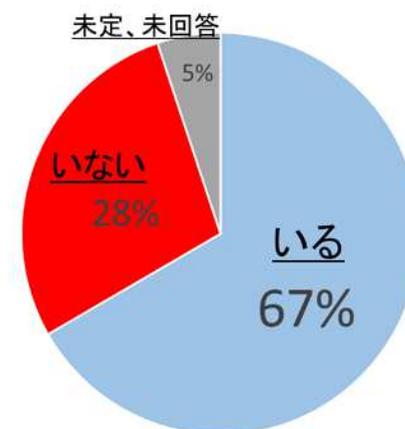
1. 年齢別



2. 今後の営農意向



3. 後継者の有無



1. 北大東村も農家（農地所有者）の高齢化が進んでいる。（約8割が60歳以上）
2. 離農・規模縮小する農家よりも規模拡大を図りたい農家が多い。
3. 意外に後継者が多い（約7割は後継者がいる）

3-2 出し手・受け手の意向把握

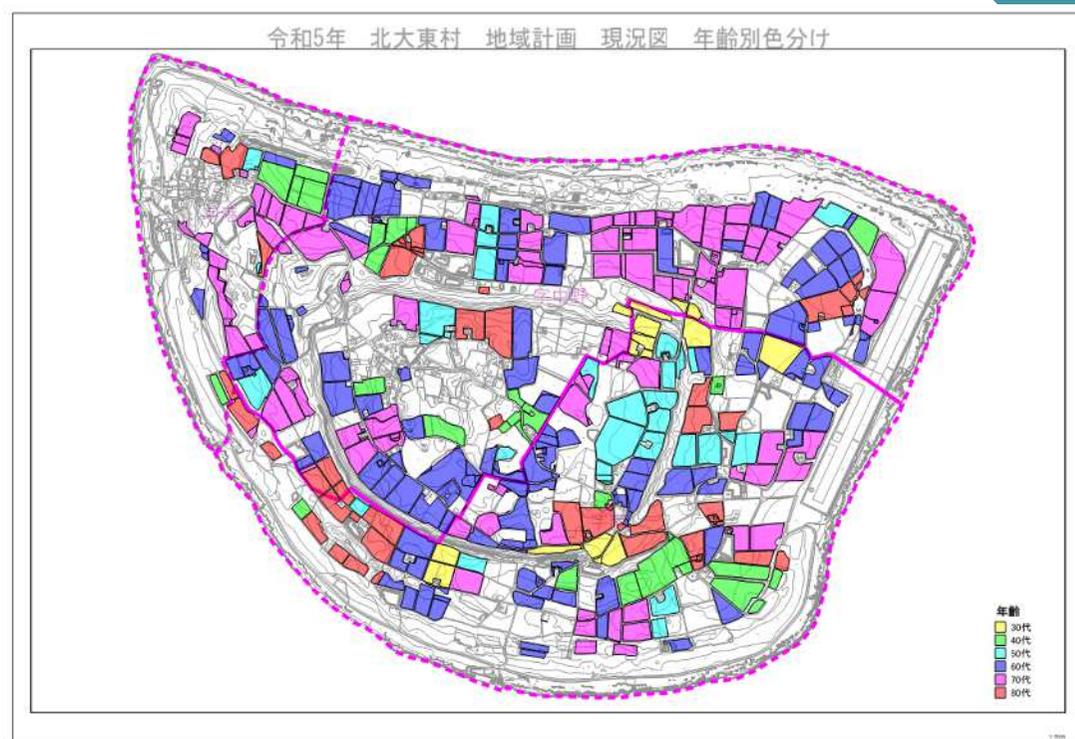
現況地図の作成

1. 年齢別色分け
2. 今後の経営別色分け
3. 後継者の有無別色分け

現況地図の利用方法

1. 地域の方に地域の**農地の状況を伝え**、今後の農地利用のあり方を話し合ってもらおう。
2. 規模縮小または離農の意向の農地や後継者が不在となっている農地を把握し、優先的に話し合ってもらおう。
3. 規模拡大したい人の意向に対し、地図を利用し確認する。

1. 年齢別色分け



3-2 出し手・受け手の意向把握

2. 今後の経営別色分け

令和5年 北大東村 地域計画 現況図 離農別色分け



3. 後継者の有無別色分け

令和5年 北大東村 地域計画 現況図 後継者別色分け



3-3 検討会及び協議の実施

地域計画検討会

1. 目的

地域の農業関係者が一体となって話し合っ作り上げていく「地域計画」を検討していくため、地域の農業関係者で話し合われた内容を本会にて精査、検討し、様々な意見を取り入れながら「**地域計画**」を策定していくこと

2. 構成員

- ①経済課（地域計画担当課、農業関係担当課） ②農業委員会（目標地図担当） ③建設課（農業基盤整備担当課）
- ④南部農業改良普及センター（北大東村駐在）
- ⑤沖縄県農業協同組合 北大東支店（農業支援サービス事業者）
- ⑥北大東製糖株式会社（製糖事業者） ⑦株式会社 うふあがりファーム（農業支援サービス事業者）
- ⑧認定農業者代表
- ⑨さとうきび生産部会（JA） ⑩馬鈴薯生産部会（JA） ⑪かぼちゃ生産部会（JA）
- ⑫字中野自治会（地域） ⑬字南自治会（地域） ⑭字港自治会（地域）

3-3 検討会及び協議の実施

地域計画検討会

3. 検討会での内容

第1回会議（令和5年7月10日開催）

- ・検討会立ち上げ
- ・地域計画についての説明
- ・地域計画策定に向けてのスケジュール共有

第2回会議（令和5年11月15日開催）

- ・地域での話し合いへの参加協力

第3回会議（1月予定）

- ・地域計画素案の検討

第4回会議（2月予定）

- ・地域計画策定に向けての最終検討

3-3 検討会及び協議の実施

協議の場

1. 地域住民に向けた「**地域計画説明会**」(令和5年11月15日開催)

今回の地域計画策定に向けては、農業を担う者が多岐に渡るため、従来の担い手だけではなく、様々な方に「地域計画」を知ってもらうため地域住民に向けて説明会を実施

また、事前に説明することで地域の話し合いまでに地域の農業や自身の今後を考えていただき、話し合いの際にスムーズな進行になるため



3-3 検討会及び協議の実施

協議の場

- 2. 地域の話し合い（北大東の農業の未来を考える会） 字**南**（令和5年11月20日開催）
- 地域の話し合い（北大東の農業の未来を考える会） 字**中野**（令和5年11月21日開催）
- 地域の話し合い（北大東の農業の未来を考える会） 字**港**（令和5年11月22日開催）

工夫した点

- （1）地域計画は北大東村1地区、話し合いは字ごとに分け **3地区**で実施
- （2）地区に住んでいる人、地区で農業をしている人、地区で農業をしたい人に呼び掛け
- （3）案内・チラシを全村民に配付し、インパクトがあり村民に響くよう「**北大東の農業の未来を考える会**」と銘うって開催

3-3 検討会及び協議の実施

開催案内

農業者
 農地所有者
 これから農業を担っていく未来の農業者
 農業関係機関

の目標

令和5年11月15日

北大東村の農業の未来を考える会への参加のお願い

北大東村の農業の未来を考える会

日時：11月20日(月) 18:00~19:30
会場：村役場2階会議室

参加範囲：宇南区で農業をしている農業者・農地所有者・農業関係機関
これから農業を営みたい方

日時：11月21日(火) 18:00~19:30
会場：村役場2階会議室

参加範囲：宇中野区で農業をしている農業者・農地所有者・農業関係機関
これから農業を営みたい方

日時：11月22日(水) 18:00~19:30
会場：村役場2階会議室

参加範囲：宇港区で農業をしている農業者・農地所有者・農業関係機関
これから農業を営みたい方

※宇ごとに分けて設定しておりますが全ての話し合いに来ていただいてもかまいません！

現在ある「人・農地プラン」が法定化され、地域での話し合いにより目指すべき将来の農地利用の変を明確化する「地域計画」にバージョンアップするために皆様のお力をお貸しください！
人・農地プランをベースに「将来、地域の農地を誰が利用し、農地をどうまとめていくか」、「農地を含め、地域農業をどのように維持・発展していくか」等を決めていくため、地域での話し合いを開催します。
今後の地域農業の在り方を考える重要な場ですので、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

重要な場ではありますが、堅苦しい会議ではありません！
農家や農地所有者、これから農業を始めたい方等の話し合いですのでお気軽にご参加下さい！



お気軽にお問い合わせください！！ 北大東村役場経済課 担当：大城 勇太
北大東村農業委員会 TEL：3-4095

「地域計画」チラシ（表）

農業・農地所有者
 これから農業を担っていく未来の農業者
 農業関係機関のみならず

地域の農業ことを地域みんなで考えよう！

みんなで作る「地域計画」

地域計画とは？
地域の農業を維持するために、誰が・どの農地で・どんな作物を・どのように栽培するのか、地域農業の将来の在り方について地域みんなで話し合い、地域みんなで作り上げていく将来計画のことです。

地域計画を作るためにみんなで話し合う項目

- ① 地域で目指したい農業・農地利用とは？
- ② 地域にある農地は10年後、誰が耕作する？誰が管理する？
- ③ 地域で中心となって農業を行っていく農業者は誰？
- ④ 地域の農業を守るためにはどんな取り組みが必要？

地域計画を策定することで生まれるメリット

- 地域内にある農地の農地を10年後「誰が耕作するのか」の明確化が！
- 農地を売りたい(譲りたい)人と、農地を買いたい(譲りたい)人のマッチングができる！
- 10年後はもう農業できないかも！
- 買収から農地を相続、分けて耕作する仕組みを構築する仕組みは、
- その農地、私たちが耕作します！
- その農地、私たちが耕作します！

地域で進むべき農業の方向性が見つかる！

国や県の支援制度が受けやすくなり、目指す農業の実現に役立つ手段がある！

集約されることで農地の魅力が上がる！

裏面へ

「地域計画」チラシ（裏）

地域計画 策定の流れ

【調査】
農地所有者の方へ将来の農地利用に関する意向調査を必要に応じて実施しました。地域での話し合いのための必要な調査になります。回答頂いた皆様ありがとうございました。

【話し合い】
地域ごとに話し合いを実施します。地域にある農地について、現状を踏まえ10年後の農地利用や目指すべき農業の在り方をみんなで考えていきます。

【地域計画+目標地図を作成】
話し合いの結果を反映させた地域計画+目標地図を作成します。またこの時「10年後に誰がどの農地を耕作するのか」を目標地図に落とし込んでいきます。

【公表】
完成した地域計画を村が公表します。
目標地図に位置づけられた担い手（農業者）を農地の貸付、売買、補助事業で支援します。

地域計画を策定した市町村は
農地の貸借、売買制度が変わります！

農地の貸借、売買制度が変わり、皆さんで作成した目標地図に沿った農地の貸し借り、売買を行います。この制度は地域計画を策定した地域から適用となり、北大東村は令和6年度4月を目標としています。

現在
「耕作している農地」
「管理している農地」
「所有している農地」を
今後どうしていくのか考えてみましょう！

北大東村役場（経済課） 北大東村農業委員会 担当：大城勇太 TEL：3-4095

3-3 検討会及び協議の実施

協議の場（地域の話し合い）の進め方について

1. 「地域計画」説明
2. 「人・農地プラン」説明
3. 地域の農業の現状やアンケートで得られた情報を共有
4. 話し合いで協議したい内容の説明
5. 話し合い

主な農作物：

さとうきび かぼちゃ 馬鈴薯

島の面積：1,192 ha

耕作面積：542 ha

農業者：99名

担い手への集積面積：

486 ha (98%) 沖縄県No.1

話し合っていたきたい事

【計画】

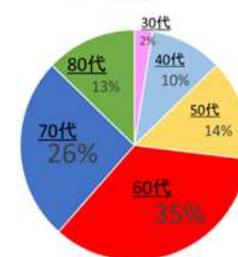
- ・地域における農業の将来の在り方
- ・地域で目指したい農業・農地利用とは？
- ・地域の農業を守るためにどんな取り組みが必要か？

【地図】

- ・農地は10年後、誰が耕作する？誰が管理する？

アンケートの結果

1. 年齢別



2. 今後の営農意向



3. 後継者の有無



1. 北大東村も農家（農地所有者）の高齢化が進んでいる。（約8割が60歳以上）
2. 離農・規模縮小する農家よりも規模拡大を図りたい農家が多い。
3. 意外に後継者が多い（約7割は後継者がいる）

3-3 検討会及び協議の実施

南地区①



港地区



南地区②



中野地区



結び

1. **現況地図**の作成に向けた**アンケート調査**では、農業委員が直接、対象者の元へ回収に行くことで回収率が向上した。※回収率 約 8.5割
2. **地域の話し合い**の中で**地域農業の現状**や**アンケートの内容**、**現況地図**を共有したことで農家個人のイメージで話し合いをするのではなく、正確な状況を知ってもらったことでスムーズな話し合いにつながった。
3. **検討会**を立ち上げ、村が策定した地域計画ではなく、地域の農業関係者が策定した地域計画となるよう、合意形成を進行できた。
4. **エリアの見直し**で話し合いの単位を**字ごと**にすることで、多くの農業者へ地域農業の現状を把握してもらい、今後の北大東村の農業のあり方について意見交換できた。

ご清聴ありがとうございました。

